

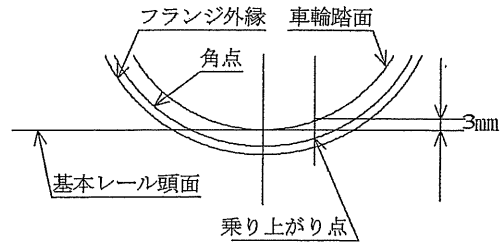
## 角点定規によるトングレールの損傷状況の判定

トングレールに損傷（欠落）が発生した場合、損傷部の高さ、幅、長さにより危険の度合いが決まり、また分岐器が対向専用か、背向専用か、対背両用かによっても変わり、技術判断が要求されます。

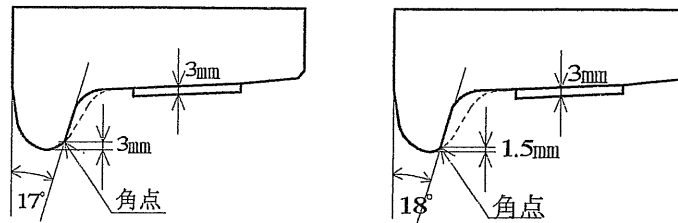
しかしここでは、より確実に簡便な、「角点定規」を使用して損傷の危険度を判定する方法を紹介します。「角点定規」を使用することにより、目で見て即座に安全か、レール交換を必要とするかが、判断できます。

### (1) 角点定規

角点定規は、2枚セットになっており、いずれも最悪のフランジ形状をかたどったものです。定規中央付近は、厚さ3mmの凸型になっていますが、これは図のように車輪が乗り始める位置が車軸の位置よりも前よりで基本レールの踏面から3mm程度上上がった位置になるからです。



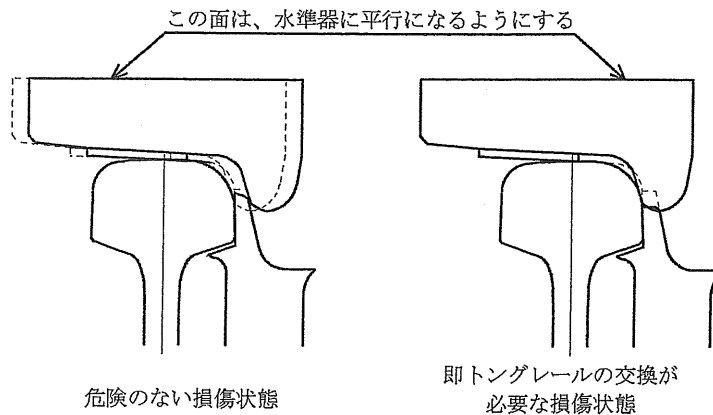
角点定規 2種



角点定規は、最悪のフランジ形状として2種類が用意されている

### (2) 角点定規の使い方

角点定規は2枚とも同じ使用方法です。磨耗あるいは損傷した測定箇所水準器をセットして**定規の上部が水準器と平行になる**ように基本レールの頭頂面と基本レール又はトングレール側面に隙間なくあてがいます。その上でトングレール頭頂面（磨耗あるいは損傷した面）と定規の角点の位置関係を確認します。



### (3) 角点定規による判定

トングレール頭頂面（磨耗あるいは損傷した面）と定規の角点の位置関係は、**トングレールの頭頂面が角点よりも上であれば安全側、頭頂面が角点よりも下であれば乗りあがる可能性があって緊急にトングレールの交換が必要**と判定します。